

英国慈善学校の組織化特性に関する研究 (その6)

— 情報公開に関する特性 —

The Research on the Organizational Characteristics in the British Charity Schools. Part6
Their Characteristics about Information disclosure

柘 植 秀 通

1. はじめに

この2014年度から、社会福祉法人において、財務諸表の公表が義務付けられた。現在、この情報公開という意識は、福祉においても必要なものとして、広く受け入れられている。もとより、情報公開無くして民主化も近代化もあり得ない。特に、組織運営において、しかも福祉機関において、情報公開なくして行われる組織運営は、しばしば、本来的には利潤とはかけ離れている福祉組織に、大きな闇と財政の不健全化をもたらす。実際に、多くの福祉施設で不正が起こり、介護保険事業では、指定取り消し件数が年々増加している¹。

このような現状を鑑みる時に、300年以上昔の慈善学校および慈善学校運動において行われた、情報公開および情報公開意識の高さを見るならば、いかに我々の現状が進んでいるのではなく、むしろ退化している面を有しているかを知ることとなる。彼らの情報公開意識の高さは、もちろん時代的制約に縛られてはいるが、現在の我々から見ても、相当の高いレベルにあると言える。このような先達の意識を通して、我々は福祉の現状に警鐘を鳴らすことも可能である。

さて、慈善学校および慈善学校運動では、民主的原則を遵守し、組織を健全に運営するためには、会員間に情報が平等にまた十分に行き渡らなければならないことをよく知っていた。そのためにも、情報の公開は不可欠である。そのため、彼らは情報の透明性、特に情報公開の意識の高さ、情報の明瞭さを確保するための情報の数値化、情報を保管・閲覧できるよう文書化すると共に整理、さらに広く公開するための出版・頒布などの情報公開システムの構築を行ったのである。先に示したように、この中には現在の我々も襟を正さずにはいられないほどの内容をも、含んでいる。以降、現代のわれわれ自身を振り返るためにも、こうした意識で彼らの情報公開を見ていきたいと思う。

2. 情報公開意識—慈善学校報告に現れた特徴

慈善学校運動における、情報公開への意識の高さを示す端的な例は、慈善学校報告の冒頭に提示された告示 (Advertisement) である。この告示には、SPCK が慈善学校運動において、いかに情報の把握とその公開に心がけていたかが示されている。

この告示が最初に掲載されたのは1712年度報告である。その冒頭には、誤情報が流れないようにと、意を注いでいたことが表わされている。そこには

これらの慈善に関わるいずれの人も、さらにその他の人も、この報告 (Account) において、何らかの誤り (Mistake) があったことなどによって、非難 (offend) せられること

¹ 老健局総務課企画法令係 (2004) 『第9回社会保障審議会介護保険部会 資料3 介護保険事業所及び施設の指定取消等数』 (<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/02/s0223-8d21.html>)

がないようにと望む。

(SPCK 1712:2)

と、正確な情報を提示するための告示がなされていた。

ただし、この情報はイギリス全体から収集されており、当時の情報の伝達時間は現在よりもはるかに長いために、情報のタイムラグが起こる可能性が高い。そのため、誤情報が掲載される可能性をも考慮に入れ、以下のようにその点の恐れと対処が記されている。すなわち

多くの特殊な事情 (particular Matters) に関わるために、そうした傾向は幾分かは避けえないし、特に、いくつかの学校の情報には、収集する中で、時の経過による (undergo in the Time) 変化 (Change) が考えられる。しかし、この報告 (Account) は、この時点における最良の情報 (best Informations) から作成されている。それで、なんらかのミス (Mistake) や省略 (Omission) があれば、出版社にお知らせいただければ、次期出版 (next Impression) において訂正 (collect) し、補充 (supply) されることとなる

(SPCK 1712:2)

と述べている。

この告示が、発刊後数年経ってからとは言え、18世紀の年次報告に記載されていた意味は大きい。むしろ、途中から情報公開の重要性を感じ、この報告をよりよいものにしようとの意志により、このような告示を10年を経ずして掲載した SPCK には、情報に対する強い意識がうかがえる。

この告示が告げていることは、上述したように、時の経過を含めた情報の変化をも見越してなお、正確な情報を提供しようという意図を持っていたという点である。こうした正確な情報の提供の意識というものは、近代的事業においても極めて重要な位置を占める。そのことは、情報公開の不足が声高に叫ばれている現状の福祉事業と比較すればよく理解できる。それらの現代の福祉事業に比べて、18世紀初頭の慈善学校および慈善学校運動において、これだけの意識で、情報公開を確実にしようとの志向性があったことは、驚嘆に値する。

3. 財政に関する情報公開

上述の情報公開意識の高さを現実化するものとして、まず財政に関する情報公開のあり方についてみていきたい。

SPCK では、協会開設の翌週 (16/3/1699) には、常任会員の治安判事であるフック氏が会計の役割を負うことが決定していた。これほど早期に、会計を設けることでもわかるように、SPCK では、財政管理に一方ならぬ思い入れがあり、特に、会計の情報公開には意を尽くしていたことがうかがえる。後には、以下のように、会計は単独の存在でなく「収支に関する委員会 (Committee for Receipts and Payments)」として組織化される。

収支に関する委員会についての規約 (Order)

1. 牧師 (Reverend) である、デーン (Denne) 助祭長 (Archdeacon)、ウィリアム・ティラード (William Tillard) 氏、またベンジャミン・ホーア (Benjamin Hoare) 氏が、当該委員会を構成する。そして、協会になされる、全会費 (Subscriptions)、贈与 (Gifts)、献金 (Benefactions)、あらゆる種類の寄付 (Contributions) および、協会報告 (Society's Account) に掲載するそれらの支出 (Disbursement) の明瞭な記録 (distinct

Account) を保持する。

2. 彼らの報告は、毎年クリスマス後の2ヶ月間、協会が指名 (appoint) する複数の人物により監査 (Audit) される。そして、会員による全ての遅滞金 (Arrears)、また利子の発生 (accruing) は、協会に提出される前に、当該監査 (Audit) に報告 (Report) される。

(SPCK 1732:9-10)

ここに記されているメンバーは、SPCK 報告によれば、なお会計 (Treasurers) の名称で呼ばれている。また、会計に関する規約のみでなく、協会全体の規約においても、

11. 40シリングを超える額 (Sum) が、協会の費用であるとの宣言 (State of the Society's Cash) がなされないまま支出 (dispose) されることはない。また、協会は、20ポンド以上の費用 (Charge) がかかる可能性がある支出の承認 (Article of Expence) について、ロンドン周辺に居住する全常任会員に印刷された召喚状 (printed Summons) (協会の集会 (Meetings of the Society) の前に、常に送付される) での告知 (Notice) を載せることなく、行われることはない。

(SPCK 1732:6,7)

と、その支出はなるべく細かいことまで、会員に周知される仕組みができていた。

財政に関する意識の高さは、慈善学校運動全体にもある程度浸透していったようであるし、SPCK は強く推奨していた。まず、各慈善学校の財政管理であるが、これは、基本的に年1回の総会で選出される会計が地区牧師とともに責任を負っていた (規約II)。基本的に、その会計簿は常に保持され、常時閲覧が可能である状態に置かれねばならなかった。しかも会員以外の人間の要求であっても、以下のように閲覧を拒まれることはなかった。

IV. 会計は全ての収支 (Receipts and Disbursements) に関する公式な報告 (fair Account) を保有し、金銭の処理 (dispose) がいかになされたかを知りたいと願う全ての会員 (Subscribers) その他のものの閲覧 (View) に供する。

(SPCK 1713:5)

これは、現在でも、相当に高いレベルにある情報公開原則である。つまり、ここには、生徒の親が疑問に思って会計内容の開示を求めることも拒むことは出来ないことになるからである。もちろん、当時の貧困家庭の両親に、出納帳を眺めることで問題の有無を発見するということが不可能であったろう。しかし、そうした権利を猶予されることがなかった点に、この事業の健全な財政を確保しようとした意志が伺える。

また、余剰金が出た場合の対処も以下のように記されている。

III. その事務所 (Office) において、その収入 (Entrance) で、何らかの資産 (Stock) が発生した場合、または、巨額の会費 (considerable Subscriptions) の受け取りがあった場合、会計 (Treasurer) は会員のうち4人以上に、会員の指導に従って、債権 (Bond) を与える。しかし、例えば会計が死亡 (Death) した場合など、特別な場合には、消費 (expend) することなく、その金は受け取られ、学校に報告 (answer) される。

(SPCK 1713:4)

このように、慈善学校の会計原則は、明瞭な情報公開のもと、明朗な財政管理が求められている。ただし、これは、理想的なケースであり、慈善学校の中には、地方にあって、組織的な活動はほとんど出来ない場合も多く、中には会員の出席が1・2名で総会さえ開かれない学校もあった（Jones 1938:68）。また、基本財産寄付による運営に頼る学校も極めて多いことから、このような健全な財政管理が行われていたところは決して多いとは思われない。にもかかわらず、SPCK はあくまでこの財政管理の原則のみをその報告に謳い、現実には動かされず進むべき方向を示したといえる。

実際、18世紀前半においても、ウェストミンスター・グレーコート慈善学校（この時点では発展してグレーコート施設（Gray-Coat Hospital）となる）の年次報告（1728年度）には、以下のように1/4ペンスにまでいたる詳細な会計報告が掲載されている（Unknown 1728:13-16）。

表 1

The Annual Expence.				
<i>For Repairs and Furniture, viz.</i>				
	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	
The Brichlayer—————	20	19	00	
Garpenter—————	9	09	00	
Glazier—————	4		12	03
Emptying of Vaults—————	3	11	09	
Smith—————	2	12	00	
For Spinning Tackle—————	2	15	00	
Turnery Wares—————	3	06	06	
The Brazier—————	1	15	03	
Clockmaker—————	0	11	00	
Paviour—————	2	02	00	
Plummer—————	1	17	06	
For Blankets and Coverlids—————	6	00	06	
Mopps—————	1	00	00	
			66	11 09
<i>For Clothing.</i>				
For Woollen Cloth—————	26	01	03	
Linnen Cloth—————	48	08	10½	
			74	10 1½
		carry'd forward	141	01 10½
		(13)		
	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	
Brought forward	141	01	10½	
Leather Breeches—————		10	14	04½
New Shoes, Mending, viz	55	03	06	
The Taylor—————	7	16	07½	
For stuffs—————	1	19	00	
Yarn—————	11	09	00	
Caps for the Boys—————	1	13	08¼	
Bodices and Stmachers—————	2	04	09	
Shoe Buckles—————	0	16	06	
	91	17	5½	
Provisions.				

	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	
The Baker—————	156	02	09	
Buther—————		122	19	03
Cheesemonger—————		103	17	03
Milk-Woman—————	17	01	01½	
Soap-Boiler—————		35	16	06
Corn-Merchant—————	16	02	00	
Tallow-Chandler—————	11	19	00	
Coal-Merchant—————	25	15	00	
Excise of Small-Beer———		11	18	00¼
Apothecary—————	14	09	09	
	516	01	07¾	

Books.

The Bookseller.—————	8	00	07½
Carry'd forward	757	01	07

(14)

Brought forward	757	01	07
-----------------	-----	----	----

Apprentices.

Wigh Apprentices—————	57	11	04½
-----------------------	----	----	-----

Incidents.

The Books of petty Disbursements	49	13	10¼
----------------------------------	----	----	-----

Salaries and Wages.

The Master and Stewards	40	00	00
-------------------------	----	----	----

The Mistress and Matron	20	00	00
-------------------------	----	----	----

The Collectors, singing- Masters and Messenger } At 5 <i>l.</i> each—————	15	00	00
---	----	----	----

Three Nurses at 5 <i>l.</i> each	15	00	00
----------------------------------	----	----	----

Two Spinning Women at Ditt	10	00	00
----------------------------	----	----	----

The Cook and LandryMaid } at Ditt	10	00	00
--------------------------------------	----	----	----

 110 00 00

 974 06 09¾

(15)

Annual Receipts

The Materials for employing the Children in Spinning, are furnished by a Wool-Merchant in <i>Long-Lane, South-Wark</i> ; who pays 1 <i>s.</i> 2 <i>d.</i> per Pound, one with another, for working it up, which annually amounts to about—————	}	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>
80 00 00				

The Casual Benefactions by Gifts and Legacies,————— Collections at <i>St. Margaret's</i> Church-Doors,————— Subscriptions and Rents, amount to about	}	894 00 00
---	---	-----------

per Annum —————

 974 00 00
 (16)

これ以降も、18世紀中盤のグレーコート慈善学校では、その報告の半分が会計報告に費やされている (Gray-Coat Charity School 1765:2-7)ⁱⁱ。さらに、上述した19世紀初めのブルーコート慈善学校（こちらはバーミンガムの学校である）では、肉やパンの出費額など、細かい内容にまで踏み込んだ会計報告が同様に1/4ペンスの金額にいたるまで提示されている (Blue Coat Charity School 1832:54-55)。

表 2

54					
<i>The Committee of the Blue Coat School,</i>					
From the 1 st of January, 1830,					
<i>Drs.</i>					
1830.	£	s.	d.	£	s.
d.					
Amount received for Rents	1222	6	2		
Dividends	158	12	0		
Annual Subscriptions	925	1	0		
	2305			19	2
Collections at Churches and Chapels, vis.					
St. Martin's	48	19	7 ³ / ₄		
St. Philip's	73		10	0 ³ / ₄	
St. Bartholomew's	26	9	2 ¹ / ₄		
St. Mary's	38	12	4 ¹ / ₂		
St. Paul's	39	12	11 ³ / ₄		
Christ Church	15	15	10 ³ / ₄		
	243			0	1 ³ / ₄
Legacies—Mr. Henry Smith	22	10	0		
Mrs. John Brown	10	10	0		
Mrs. Ann Wilkinson	22	10	0		
	55			10	0
Annuities—Mrs. John Hammond	7	3	9		
Mrs. Thos. Duncomb, 3years.	6	0	0		
Mr. Benj. Salusbury, 2years.	4	0	0		
	17			3	9
Charity Boxes			1	1	1 ¹ / ₄
Trustees of Fentham's Charity			217	6	11
ST. David's Society			149	8	0

ⁱⁱ ホールスリーダウンの慈善学校の報告にはこうした会計報告がないが、これは、簡略化された報告であり、規約 (rule and order) を提示することを目的としていたからかもしれない。

	2989	9	1
Balance due to Attwoods, Spooner, and Co.	91	3	10
	£3080	12	11

Auditted by JOHN COPR,
W. L., BICHLEY.

55

in Account with the Subscribers,
to the 1st of January, 1831.

	Crs.					
January 1, 1830.	£	s.	d.	£	s.	d.
Balance due to Attwoods, Sponer, and Co.	207	7	6			
For Bread and Flour	464	13	3			
Meat	512	19	6			
Bacon and Pigs	3	8	0			
Cheese	50	4	0			
Grocery, Treacle, Chandlery, &c	136	15	0			
Allowance in lieu of Tea, &c	16	0	0			
Oatmeal, Salt, and Peas	31	3	0			
Malt and Hops	38	19	0			
Dispensary	6	6	0			
				1385	11	3
Blue Cloth, Corduroy, and Buttons	124	11	0			
Woolen Yarn for Stockings	19	7	0			
Blue Caps, Boonets, Stays, and Hats	28	1	0			
Mercery and Drapery	69	12	0			
Tailoring	84	7	0			
Shoes and Mendign	186	5	0			
Washing and Water	40	19	8			
Salaries and Wages	203	2	8			
Stationery and Advertising	80	6	7			
				836	11	11
Furniture and Utensils	71	15	8			
Repairs and Insurances	168	13	0			
Coals	58	1	0			
Conveyancing & Expenses of Garden	154	19	7			
Land Tax and Ground Rent	152	16	5			
Annuity – Mary Price	5	0	0			
Sundry Payments	40	2	7			
				631	2	3

£3080 12 11

Balance due to Messrs. Attwoods, Spooner, and Co. 91 3 10

4. 情報数値化の努力

情報の透明性を確保するためには、なるべく客観的に認識できるよう、数値化する努力が必要となる。前項で述べた財政が、数値化という点では最も理解しやすいところであるが、SPCKは、その他の部分でも客観的な数値を重視する方向に向かっていたことがうかがえる。その第一の例が、各地の慈善学校情報である。

まず、ロンドンとウェストミンスター近郊の慈善学校に関する情報が以下のような形で数値化された情報となっている。

表3

The present State of the CHARITY-SCHOOLS in and about LONDON and WESTMINSTER, and within Ten Miles Tereof, *May 1712*

This Mark denotes Schools set up since the last Year's account, or not mentioned therein for want of Information. C. signifies Cloath'd M. Maintained and set to Work. W. set to Work only.

CHARITY SCHOOLS in the Parishes of	N o. of S ch	B O Y S	G I R L S	Voluntary Subscriptions about per Annum.			Collections at Sermons & Sacraments about p. Annum			Gifts to each school from the Beginning.			Boys & Girls put out Appren tices from the Beginni ng.	
				<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	<i>l.</i>	<i>s.</i>	<i>d.</i>	Boys	Girls
St. Allhallows Lombard-street C. —	1	32	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	4	*
St. Andrew Holborn C.	2	80	80	259	4	6	65	18	4	348	15	6	91	97
In the same Parish at ST. George's Chapple	2	50	40	172	10	—	103	—	—	8	—	—	6	—
St. Anne Westminster C.	2	50	50	140	—	—	142	—	—	380	8	—	70	—
St. Botolph Aldersgate C.	2	50	50	100	—	—	23	—	—	163	—	—	18	24
St. Botolph Aldgate C.	4	110	90	122	—	—	50	—	—	278	—	—	82	20
St. Botolph Bishopgate C.	12	30	—	48	—	—	—	—	—	10	—	—	—	78
Brentford in Middlesex p.C.	2	38	8	60	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—
*St. Brides Parish C. —	2	50	50	200	—	—	55	—	—	16	—	—	—	10
Broad-Street Ward, C.	1	50	24	67	—	—	20	—	—	14	15	9	62	—
To which schools there is 2 <i>l.</i> per Ann. left for 10 years	1	—	30	50	—	—	15	8	6	11	1	6	—	—
Camberwell in Surry—	1	—	—	50	—	—	8	16	—	—	—	—	—	—
*Christ Church in Surry C	1	20	—	10	—	—	—	—	—	400	—	—	12	—
Chelsea in <i>Middlesex</i> C.	27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
*In the same Parish, Cl.	1	—	30	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Another Sch. Chiefly supported by Ladies and Gentlewomen, 7 of whom are Trustees	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
St. Clement Danes, C.	1	70	40	125	5	6	55	5	21	750	—	—	78	24
To which Schools there is 100 <i>l.</i> per Ann. left—	1	50	—	88	2	—	18	—	—	269	5	6	—	—
Clipplegate ward within Including the School in the parish of St Alpage, C.—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Deptford in Kent, Supported by a Settlement of 171 <i>l.</i> per Ann.	3	30	60	168	17	6	79	10	6	61	11	—	12	2
St. Dunstan in the West p.C. Ealing, <i>Middlesex</i> .	2	25	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
The Charge of which Schools is decreas'd out of Subscriptions to Brentford	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	33	812	572	1710	19	6	665	18	6	2710	25	3	447	255

(SPCK 1712:11)

表4

CHARITY SCHOOLS in the Parishes of	N o. of S ch	B O Y S	G I R L S	Voluntary Subscriptions about per Annum.			Collections at Sermons & Sacraments about p. Annum			Gifts to each school from the Beginning.			Boys&Gi rls put out Apprenti ces from the Beginnin g.	
				<i>l</i>	<i>s</i>	<i>D</i>	<i>l</i>	<i>s</i> .	<i>d</i> .	<i>l</i>	<i>s</i>	<i>d</i>	Bo	Gi
St. Sepulchre. C.—	4	84	70	230	—	—	40	—	—	195	4	.	69	61
St. Stephen Walbrook C.	1	12	—	12	—	—	14	—	4	—	—	—	1	1
Taberacle in Petticoat Lane, in Stepney Parish, C	1	30	—	20	—	—	30	—	—	—	—	6	—	—
St. Thomas Southwark C.	1	30	—	32	6	—	2436	1	10	—	—	—	2	1
Tower-Ward C.	2	60	60	200	—	—	—	—	—	76	—	—	—	2
Twickenham <i>Middlesex</i> C.	1	50	—	90	—	—	28	—	—	10	—	—	37	1
Vinity-Ward C.—	1	50	—	86	10	—	—	10	—	16	5	—	—	1
Wandsworth in <i>Surrey</i>	1	40	—	55	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1
Wimblendon in <i>Surrey</i>	2	50	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
	14	406	130	805	16	0	172	11	10	297	9	6	110	61
Brought from fol. 11—	33	812	572	1710	19	6	665	18	6	2710	15	3	447	266
<i>Ditto</i> from fol. 12—	57	843	542	1393	6	11	1227	19	11	3875	18	6	363	205
<i>Ditto</i> from fol. 13—	35	986	396	1646	2	0	1005	8	9	5090	6	6	465	131
<i>Total</i> ———	119	3047	1640	5556	4	5	3071	19	00	11974	5	9	1385	652

Boys clothed———	2821	} 4318 Total of Children clothed.
Girls clothed———	1497	
Boys not colathed —	226	} 369 Total of Children not clothed.
Girls not clothed —	143	
		4687 Total of Children Taught.
Boys put out Apprentices	1385	} 2037 Total of Children put out Apprentices.
Girls put out Apprentices	652	

(SPCK 1712:14)

当初、これ以外の地域の情報は、情報の質量とも、非常にばらつきがあり、全て文字情報で、たとえば以下のように書かれていた。

エセックス州、コルチェスター。2つの学校。一つは70人の少年のため、今一つは50人の少年少女のために。読むことのほか、編み物 (knit)・縫い物 (sew) も教えられた。子どもらは彼らめいめいの寄付者 (Benefactors) により服を与えられた (clothed)。そして、残りの者たちは帽子 (caps) とベルト (Band) によって区別された。男性教員 (Master) は年30ポンドを、住居 (Dwelling) と石炭 (Coals) と共に受け取り、女性教員 (Mistress) は家 (House) と石炭 (Coals) を受けとる。臨時の寄付 (casual Benefactions) のほかに、年間会費は、驚くべきものがある。理事会は140ポンドを物品購入用 (Purchase) に保持し、建物修理 (Repairs of some Building) に92ポンド5シリング3ペニーを持つ。その募金は、2つの学校の整備に、また男女の教員 (Master and Mistress) の良い住居 (fair Dwelling) のために使われる。そして第3の住居は、学校が大きくなった場合の他の男性の教員の住居とする。

(SPCK 1713:27)

しかし、1716年になると、全てを数値化して以下のように表にまとめるようになった。

表5

A LIST OF THE CHARITY-SCHOOLS In other Parts of <i>Great Britain</i> and Ireland.											
Charity-schools In the Countries, Town, and parishes following.	N o. o f s c h	B O Y S .	G I R L S.	Charity-schools In the Countries, Town, and parishes following.	N o. o f s c h	B O Y S .	G I R L S.	Charity-schools In the Countries, Town, and parishes following.	N o. o f s c h	B O Y S .	G I R L S.
Anglesey Llangeinwen—	1	16		Hawnes	1	30		Berkshire.			
Bedfordshire. Ampthill	1	26		Henlow	1	10		Abingdon part <i>Cl.</i>	2	16	10
Arlesey	1	6		Leighton	1	10		Bingheld	1	6	
Battlesden	1			Beaude-sert			12	Blewbury <i>Cl.</i>	1	50	
<i>St. Paul's</i> Bedford	1	28	12	Malden	2			Boreton	1	7	
Biggleswade	2	8	8	Melchburn	1	12		Bray part <i>Cl.</i>	4	20	41
Caddington	1	10		Meppersall	1	8		Buckland	1		
ChalgraveHockliff	1			Milbrook	1			Chadeleworth	1		
Cliston	1	10	10	Milton Earneys	1			Childrey	1		
Dean	1	20		Norhill	1	25		Cleworth	1	16	
Dunstable	1	20		Sandy	1	20		Colshill	1	12	
Flitton cum Silso	1			Southill	1	12		Comner&Wooton	1	27	
				Streetley	1	8		Compton	1		
				Studham	1			Cranburn <i>Cl.</i>	1	20	20
				Sutton	1	6		Hinton parva	1		
				Thurleigh	1	6		Hurst	1	14	
				Tuddington	1	7		Longcott	1	24	
				Wilden	1	5		Maidenhead <i>pt. Cl.</i>	1	19	
				Wobourn <i>Cl.</i>	2	30	15	Newbury 1707, <i>Cl.</i>	1	40	
				Yelden	1						
	1	16	30		2	189	27		22	27	71
	4	7			1					1	

(SPCK 1716:17)

また、この統計表の最後には、慈善学校数、男児の数、女児の数の総数が記載されていた。

表6

	N o. of S c h	B O Y S ·	G I R L S ·	N o. of S c h	B O Y S ·	G I R L S ·	N o. of S c h	B O Y S ·	G I R L S ·
Brought over from <i>page</i> 17	14	167	30	21	189	27	22	271	71
Ditto from <i>page</i> 18	49	706	94	58	1047	90	43	467	95
Ditto from <i>page</i> 19	51	919	215	50	763	242	56	799	46
Ditto from <i>page</i> 20	55	952	186	39	478	31	37	487	49
Ditto from <i>page</i> 21	53	923	188	48	529	80	54	752	12
Ditto from <i>page</i> 22	44	547	194	53	804	193	54	827	158
Ditto from <i>page</i> 23	50	779	92	49	1012	158	60	968	324
Ditto from <i>page</i> 24	53	829	124	47	903	99	55	996	123
Total—————	369	5822	1123	365	5725	920	381	5567	878

At <i>LONDON</i> , Number of Schools—————	124	} No. of Sch—————	1115	Number of Children—————	4906
In other Parts of <i>Great Britain and Ireland</i>				No. of Children—————	20035
Total of Schools—————	1239			No. of Children—————	24941

(SPCK 1716:25)

これらの記載を通して、SPCKはイギリス全体の慈善学校に関し、数値的に確実な情報を載せようと努力していったことが伺える。

彼らは、このような人数のみでなく、児童の行動をも数値化し、評価を客観化しようとしていた。それは、児童の問題行動を以下のような表にまとめていたことに現れている。

表7

AUG 1709		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13 ^s
		Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Frid.	Satur.	Sund.	Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Frid.	Satur.
1	A—													
2	B—											Curs.		
3	C—		.					.c						
4	D—										.			
5	E—				L.									
6	F—									T				
7	G—													
8	H—								St.					
9	I—				.									
10	K—							D*c*						
11	L—			Sw.										
12	M—							a*c*						
13	N—													

Curs. 悪口を言う. Sw. ののしる.
 St. 盗難 L. うそをつく.
 T. 遊んで怠学 A. 欠席
 . 遅刻
 P.c. 教会で遊ぶ A.c. 教会を休む

(SPCK 1712:51)

この数値化の努力は、児童への指導そのものを明快な原則の下に置けるようにとの意図で行われたと考えられる。このような、通常数値化し得ない部分にまで、彼らは数値化を行おうと努力し、情報の透明化を図ろうとしていたⁱⁱⁱ。

5. 文書の保管・配布、印刷・出版

上述の財政情報の公開も含め、情報公開の基礎となるものが、文書の作成と閲覧が可能な状態で整理・保管することである。また、情報内容によっては、広く頒布することも必要であり、実際に印刷し出版された。特に、協会の報告書は18世紀博愛事業全体の大きな特徴でもあり (Clark 2000:265)、慈善学校および慈善学校運動でも広く頒布された。

例えば出納情報に関しては、上述したように慈善学校報告の規約IVで、保存と開示の責任を課し、いかなる人物からのものであっても情報開示要求を拒否することがないことを明示していた。しかも、以下のように、この出納帳は会員による審査を受けねばならないと明記されていた。

V. 会計の報告 (Treasurer's Accounts) は、四半期総会 (Quarterly Meetings) において、精読され (perused)、審査を受け (examined)、年に二度以上会員たちによって作成され

ⁱⁱⁱ ただし、この試みは長く続かなかつたようであり、翌年の報告においては、こうした報告は姿を消していた。

ねばならない」

(SPCK 1713:5)

これだけの出納の正確な情報保管と公開規則は、現在でも行われていない所も多いのではないかと思われる。

個々の慈善学校においても、たとえばホールスリーダウンの慈善学校でも、総会は年1回となっているが、そこでは、以下のように学校の状況報告が文書によって行われることになっている。

2. …選挙は4月の第2木曜に行われ、その時学校の状況 (State and Conditon of the School) 報告が作成され提出される。年長 (old) マネージャーと、選出された会計 (elect Treasurer)、そしてマネージャーは、2週間後に集まり、前年度報告の監査 (Auditor) を指名する。…」

(Charity School at Horsly-Down 1781:5)

この学校では、さらに児童の出席状況の記録もマネージャーは保管し、以下のように児童の推挙の基礎資料となった。

7. 学校へのあらゆる欠席 (Vacancy) を、マネージャーは遅滞なく (without Delay) 文書に記し、次期の推挙権 (Presentation) を持つ人物に知らせねばならない；もし、推挙を黙過 (neglect) したり、1週間以上の間隔 (distant) を空けて行われる3回にわたるマネージャーの集会 (Meetings of the Managers) の中での確な推薦を行わない場合、次の会員に推挙権の順番は委譲される

(Charity School at Horsly-Down 1781:6)

さらに、学校の状況、会員の情報等も、以下のように記録文書として保管された

8. 会員全員の名前、その会費の額、出席の回数、全ての児童の名前、入学時の年齢 (Ages)、推挙人の名前、また遂行された日時、その理由等について記した記録 (Books) を保管する。

(Charity School at Horsly-Down 1781:7)

また、ブルーコート慈善学校では、会計の情報公開、文書の保管が以下のように厳格に規定されている。

X I. この施設 (Institution) に関わる金銭の総合報告 (general cash account) は、委員会 (committee) により、常に保持されねばならない。また、季節ごとの会員 (Subscribers) の監査 (inspection) に対し開示されねばならない。そして、この慈善のためにと受け取られた現金は、上述のように、委員会によって選出された銀行 (Bank) にただちに預金 (deposit) される。

X II. 施設に関わる書類 (writings) や文書 (books) は、棚 (chest) に置かれ、石作りの部屋に守られ、それぞれ異なった鍵を持った3つの錠をつけ、3つの鍵を、委員会 (Committee) のうち3名 (three individuals) がそれぞれに保管する。そのうち一名はその時の議長 (chairman) が担う。

(Blue Coat Charity School 1832:29)

さらに、これらの情報を現在も入手が可能であるということは、報告書が作成され、印刷頒布されていたからである。この頒布を通して、自らの施設の広告宣伝と同時に、情報の開示に彼らが意を尽くしていたことがうかがえる。

こうした情報の公開性と文書の保持責任は、各慈善学校のみを負わされていたのではなく、SPCK自体も、慈善学校運動全体への責任として、また自身の業務としても、この点には非常に心を砕いていた。それは何よりも、2に述べた「告示」にその意気込みが現れている。そればかりではなく、2015年度の本紀要で述べた書記に関わる規約に現れた、膨大な量の文書群の保管・管理の業務を見れば、実際にもどれだけ情報の保管・管理に意を注いでいたかが理解できる。

この書記の業務の拡大は設立当初から始まり、1701年以降は、通信会員の増加にもより、文書の作成・出版が次々に行われていった。その中には、1701年12月30日に、学校の執行員に命じられたロンドンおよびウェストミンスター周辺の学校の学校数・児童数・教師数の調査などの膨大な作業も含まれていた。その他にも、学校に関する運営のマニュアル等の作成、SPCKの報告書の正確な保管（30/12/1700）^{iv}、欠席メンバーへの改変事項の報告など（2/12/1701）^vも行っていた。

こうした文書を重要視する傾向は、特にSPCK創立以来徐々に強くなってきたものであり、当初の議事録には、こうした膨大な文書に関する記述は少ない。この初期の数年の間に、SPCKの中で急速に文書の作成・取り扱いと情報公開の必要性が認識されていったものと考えられる。特に、通信会員との情報の交換は、組織が全国展開をする上で極めて重要であったようであり、1701年以降には、通信会員との相互連絡の情報が頻繁に議事録に記載されるようになり、1702年1月12日には、通信会員に関する委員会が発足するまでになる。書記は、これらを全て文書にまとめ保管・管理をしていた。

この保管に加え、SPCKによる文書の印刷・頒布は極めて大規模であった。ひとつは、SPCK自身が、キリスト教文書の出版・頒布を行う組織でもあることにもよるが、慈善学校報告の持つインパクトの大きさにもよった。

この慈善学校報告の広がり大きさは驚異的でさえある。その報告は、イングランドを超え、スコットランドやアイルランドなどイギリス全土や、さらにはイギリス植民地をも含む。それどころか、ロシアやデンマークにまで広がっていったことが述べられている（SPCK 1709:44-45）^{vi}

もちろん、各慈善学校では、これほどの広報の広がりがあり得ないが、上述のように、それが可能な慈善学校では、それぞれが報告書を作り、印刷・頒布をしていたことは文書が残っていることから疑いえない。小規模な学校において、このような運営が行われていたかは知るすべもないが、慈善学校全

^{iv} 「ロンドンおよびウェストミンスター周辺の慈善学校の数、それらの学校が保持している場（Places）の数量、それぞれの学校を維持するために集められる会費の金額（sums subscrib'd）、学校の男性教員（Schoolmasters）・女性教員（Schoolmistress）の名前、各学校で教えを受けている少年・少女の人数、各学校で何人が衣服を与えられているか、同じく何人が徒弟（Apprentices）に出されているか、を含んだリスト（List）をなるべく速やかに協会にもたすよう命じられた」

^v 「書記のアシスタント（Secretary's Assistant）に、欠席会員（absent Members）にこの警告（Alteration）を知らせるよう、命じられた」

^{vi} 「我々のうちで、近年現われてきた、貧しい子供たち（Children of the Poorer Sort）のキリスト教教育の推進（promoting the Christian Education）への熱意（Zeal）は、我々自身の国境（Borders）のうちに止まるものではなく、むしろ他のヨーロッパの新教の国々（Protestant Countries）に、同様の栄光ある計画（Glorious Design）を行うことへの同様の関心と、それをいかに行っていくかということについて我々は興奮している。モスクワ大公（Czar of Muscovy）は、スウェーデンやオランダ、スイス、またドイツのいくつかの諸邦（several Parts of Germany）と同様に、最近、彼の領地（Dominions）のうち、いくつかの大きな町に学校を建設した。以前に行った我々の年次慈善説教（Anniversary Charity-Sermons）のうち何点かと、慈善学校報告（Account of Charity-Schools）の何点かが、あるすぐれた人の手により、上級ドイツ語（High-Deutch）に翻訳され、2つの慈善学校がすでに、我々の模範（Model）にしたがってコペンハーゲンで設立された。また、ドイツとスイスのいくつかの場所と同様に、努力（Endeavour）が行われている。」

体で文書の保管・管理・情報の公開・頒布への意識が高かった様子うかがえる^{vii}。

特に、慈善学校報告の出納の規定にあるごとく、会員以外にも内部情報を公開しようとの意識の高さは、それが実際にできたかどうか、特に貧しい親たちに出納帳を閲覧することによって内実を理解する能力があったかどうかは別にして、非常に驚くべきものがある。こうした点は、現在の福祉事業においても、見習うべきものである。

6. 終わりに

このように、慈善学校および慈善学校運動においては、非常に高い情報公開の意識を持ち、その情報を出版し広く頒布することさえ行っていた。

まず、彼らの情報意識の高さは、告示に示された、正確な情報を提供しているという自信と、問題があれば直ちに修正する準備をしているところに表わされている。現代のように情報化が極めて進んだ状況においてさえ、様々な企業・機関では情報を改ざんし、少しでも自己に有利な状況を作り出そうとする事態がある中で、当時、そのような義務もなく自主的に情報を公開していた、というその志の高さに驚かされる。

このような志の高さを現実化するための、具体的情報内容としては、何より財政情報の提示がある。まず、この点での慈善学校および慈善学校運動の意識は極めて高かったと言える。それが、3.で示した会計に関する極めて厳格なシステムを作り出したことに見いだせる。彼らは会計を決して一人に任せきることをせず、集団責任制のもと互いにけん制しあうようなシステムを作り上げていた。しかも、望む者には会計簿の閲覧を拒否することができない規約を作り実践していた。

なお、これらの会計に携わる者は、基本的にボランティアであり、書記に関しては、どの団体よりも早期に専任化を実現したSPCKにおいて、より専門性を要求される会計に関して、決して専任化しなかったことには何らかの明確な意図があったのではないかとと思われる。そのようなことを明示した資料は存在しないので、明確なことは言えないが、ボランティアにとどめることにより、専任化した職員に依存しすぎて腐敗の温床となることを防ぐ意図があったのではないかと推測される。こうした財政情報は、極めて細かく記述されており、1/4 ペンスに至るまでの記録も残っている。

また、財政以外の情報も、明確化を図るためと思われるが、なるべく多くの人に明解な情報を提供するために、情報を数値的に示す努力が行われていた。もちろん、在籍学童数などははっきり数字で表していたが、当初文章でしか表現しえなかった遠隔地の情報も時間の経過とともに、表を用いて明確化する努力がはらわれていた。さらには、こうした数値化が困難な、児童の行動についても、数値化しようとする努力の跡があったことも知れた。

しかし、こうした情報も、情報の保管・配布がしっかり行われていなければ、意味のないものとなる。そのため、SPCKでは総会や委員会に種々の報告が上程されており、さらにそれらは厳格な原則のもと保存・管理され、基本的に誰に対しても秘密にされることなく、公開されていた。さらには、基本的な情報は出版・頒布されており、現在に至るも、彼らの状況がかなり詳細にわかるのは、このような頒布による。

このように、慈善学校および慈善学校運動における情報の公開は、かなりレベルの高いところまで来ており、現在に持ってきて、決して低いレベルに入るものではない。その点では、当初よりこれほど

^{vii} 現在、筆者の所有する慈善学校報告は、ヨークの慈善学校報告、聖キャサリン慈善学校報告、オックスフォードのグレーコート慈善学校報告、ホルスリーダウン慈善学校報告、聖パトリック慈善学校の資料、ブルーコート慈善学校報告である。それぞれ、教派も違うなど、異なった点も多い上に、報告の内容も異なった部分は多い。しかし、このように、個々の慈善学校が自らの報告を出版する意識を持っていたことが、情報の公開、発信という点から、大きな意味を持っていると考えられる。

の意識をもって行われていたことを振り返り、我々は現代の鑑とすべきであろう。

文献集

- Allen, W.O.B, McClure, Edmund (1898) Two Hundred Years The History of The Society for Promoting Christian Knowledge 1698-1898 Burt Tranklin New York.
- Blue Coat Charity School (1832) A short Account of the Blue Coat Charity School in St. Philip's church yard, Birmingham, from its institution in 1724, to 1830. H.C.Langbridge.
- Charity School, at Horsly-Down (1781) A Brief Account of the Charity School at Horsly-Down, Southwark, instituted in the Year, 1714 London, R. Bishop, Great Newport-Street.
- Clark, Peter (2000) British Clubs and Societies 1580-1800 : The Origins of an Associational World. Oxford University Press.
- Gray-Coat Charity School (1765) An Account of the Gray-Coat Charity School in Oxford
- Jones, M.G. (1938) The Charity School Movement – A Study of Eighteenth Century Puritanism in Action. Cambridge at the University Press.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1709) An Account of Charity Schools In Great Britain and Ireland : with the Benefactions thereto, and are governed. Also, A Proposal for adding some Work to the Children Learning. Joseph Downing.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1712) An Account of Charity Schools In Great Britain and Ireland : with the Benefactions thereto, and are governed. Also, A Proposal for adding some Work to the Children Learning. Joseph Downing.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1713) An Account of Charity Schools In Great Britain and Ireland : with the Benefactions thereto, and are governed. Also, A Proposal for adding some Work to the Children Learning. Joseph Downing.
- Society for Promoting Christian Knowledge (1716) The Methods used for Erecting Charity-Schools, with the Rules and Orders by which they are Governed, a Particular Account of the London Charity-Schools : with a List of those erected elsewhere in Great Britain and Ireland. Joseph Downing.
- Unknown (1728) An Account of Gray-coat Hospital. London, Joseph Downing.
- 老健局総務課企画法令係 (2004) 『第9回社会保障審議会介護保険部会 資料3 介護保険事業所及び施設の指定取消等数』 (<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/02/s0223-8d21.html>)